

甲78の2（甲78の1の和訳） 文責：弁護士戸田善恭

417頁上段赤枠部分

目的: 不妊手術と抑うつとの関係を、BECK抑うつ質問票(BDI)を用いて調査し、術前のBDIスコアが術後の満足度に予測的価値を持つかどうかを分析すること。

方法: 腹腔鏡下不妊手術を受けた162人の女性を対象とした。骨盤内炎症性疾患、子宮内膜症、付属器病変、子宮筋腫、過去に帝王切開を受けた患者は除外した。手術の1週間前と手術から1年後にBDIを実施し、患者に現在の不妊状態に満足しているかどうかを尋ねた。

結果: 術前と術後の平均BDIスコアはそれぞれ 10.1 ± 2.7 と 12.9 ± 4.0 であり($p < 0.001$)、術前後のBDIスコアの差は年齢と満足度に影響を受けた。若い患者では術後のスコアが有意に増加した。不満を感じた女性は術前後のBDIスコアが高く($p < 0.001$)、不満足群では術前後のスコアの差が有意に大きかった。術前のBDIスコアは、1年後の満足度を予測する重要な指標であることが示された。

結論: 術前にBDIを実施することで、後悔や不満足のリスクが高い女性を特定できる可能性がある。

417頁下段赤枠部分

不妊手術は効果的な避妊法であり、広く行われるようになっている。高齢女性が抱く経口避妊薬に対する不快感、代替避妊法の失敗率が比較的高いこと、外科的不妊手術が容易に利用できることなどが、不妊手術の人口増加に寄与している。

419頁赤枠部分

外科的不妊手術は現在、女性の間でますます普及しており、その傾向は増加している。女性は伝統的に出産や妊孕性の調整において重要な役割を担っており、そのため男性よりも不妊手術などの避妊法を利用する傾向にあると考えられる。不妊手術の心理的影響は、生理学的副作用と同様に、女性の健康のためによく確立されるべきである。

420頁赤枠部分

不妊手術前のカウンセリングは、特に若い女性に対して、代替的な避妊方法、手術の不可逆性と失敗の可能性をカバーする必要がある、カップルの心理社会的及び婚姻関係のダイナミクス、女性の月経歴、性歴、心理的または身体的症状に関する情報を引き出すべきである。